

The background of the cover is a solid teal color. Overlaid on this are various dark teal and black silhouettes of art and office supplies. These include a large pair of scissors, several pens and pencils, a compass, a ruler, and several paper clips. The items are scattered across the page, creating a layered, artistic effect.

AES

日本美術教育学会

The Art Education
Society of Japan

日本美術教育学会学会誌

美術教育

No.
292
2009

2009/3/31発行

【目次】

巻頭言:

●神林 恒道 ————— 006

研究論文

【大原美術館における幼児のための彫刻鑑賞プログラム】

Ohara Museum of Art Sculpture Appreciation Program for Young Children

●岡山 万里・高橋 敏之 ————— 008

【美術教育から出発する学校づくり—全校造形の実践を通して—】

Developing School Curriculum Based on Art Education —Through the Practice of Plastic Arts at All Grades—

●奥原 球喜 ————— 018

【手作りインタフェースとマルチメディア提示システムの開発による保育園での造形教育等への活用について】

The practical use of Creative Education at Nursery Schools by “The development of The handmade Interface and Multimedia Presentation System”

●小山 嘉紀・藤野 猛士・古川 文子 ————— 026

【他者に開かれた経験としての美術—全ての領域に繋がる美術教育の可能性に向けて】

Art as a Two-Way Communication —For the Possibility of Art Education as a Basis of All Human Activities

●佐々木 昌夫 ————— 034

【ポストモダン以降の現代の美術と美術教育の関係のための一考察

—2007年ヴェネチア・ビエンナーレ、ドクメンタ、ミュンスター野外彫刻展を鑑賞して—】

A Study of the Relation Between Art Education and Contemporary Art Since the Postmodern Era

—Through the Appreciation of Venezia Biennale, Documenta, and Sculpture Projects Muenster in 2007—

●詫摩 昭人 ————— 042

【能動的触知覚を通じた描画表現—触探索をとりいれた表現活動の研究—】

Drawing Expression Through Active Touch —A Study of the Activity of Expression Through Tactile Object Recognition—

●辻 誠 ————— 052

【我が国の構成教育に関する史的考察I—武井勝雄と間所春を中心に—】

Historic Consideration about Kousei as Basic Education in Japan I. —Mainly on Katsuo Takei and Haru Madokoro—

●藤原 智也 ————— 060

【地域の材料を生かしたものづくり教育の可能性

—中国内モンゴル自治区の小学校美術教科書の考察と実践授業を通して—】

The Possibility of the Education of Making-Objects which uses the Material of the Local

—Through an Examination of the Art Textbook and the Practical Lesson at the Primary of School in Inner Mongolia, an Autonomous District of China—

●包 格日樂吐 ————— 068

【粘土場の遊びと環境】

Play through Art Clay Topos and Environment

●前嶋 英輝 ————— 076

実践報告

【リスクマネジメントの観点による専門教育(美術)の一考察】

●阿部 鉄太郎 ————— 086

【芸術専門学校生に対する美術を用いた哲学教育】

●上野 哲 ————— 094

【教員養成系学部・大学における教育実践としての教師教育】

●栗田 真司 ————— 98

【「技法の獲得」が「自分なりの表現」に結びつくための実践について】

—スパッタリング技法を用いた小・中学校での授業実践から—

●森高 光広 ————— 106

【多世代の交流による参加型造形ワークショップ】

—こども未来創造プロジェクト さわやかチャリティアートフェスティバル—

●森田 実穂 ————— 114

**第57回学術研究大会
大阪大会報告**

記念講演

【感性をひらく教育のために】

●神林 恒道 ————— 122

共同討議

【子どもの主体的表現とまなざしの共有—幼児の造形活動に学ぶ—】

●大橋 功・松岡 宏明 ————— 128

研究発表

【PISA 型読解力向上としての鑑賞教育の意義—「読む」ことの鑑賞教育—】

●長瀬 拓也 ————— 140

【造形表現に対する幼児の自信の積み重ねについての—考察—幼児にとっての自己表現とは—】

●佐々木 大輔・中村 翔 ————— 142

【構成教育による統合—題材を超えた系統性のある美術科指導計画に関する研究—】

●藤原 智也 ————— 144

【美術を通して豊かな生き方を探る—自己と社会を深く見つめる授業をめざして—】

●鈴木 秀幸 ————— 146

【保育者の「みる力」と「育てる力」—島根県保育所(園)・幼稚園造形教育研究会の取り組みから—】

●松岡 宏明 ————— 148

【美術作品にみる傷みと希望—研究展覧会アンケート分析に基づく美術作品鑑賞の心性の検討—】

●星 聖子 ————— 150

【「美術教育による市民リテラシー育成についての—考察—】

—授業実践「アートの森の散歩道」を事例として—

●橋本 忠和 ————— 152

【『色彩力』を育成する新たな指導法の試み—「色の三要素」の再発見—】

●小林 英樹 ————— 154

【学校と愛知県美術館の連携による鑑賞教育—連携からひろがる鑑賞学習実践を通して—】

●岡島 叔子 ————— 156

InSEA (国際美術教育学会)世界大会 in Osaka 2008

【美術教育の今とこれから—「まなざしの共有」を通して考える—】

●神林 恒道・高垣 満恵・宮野 恵理子・人見 和宏・田野 智子・大橋 功・新関 伸也 ————— 158

書評:【モナリザは怒っている!?—鑑賞する子どものまなざし—】

●大橋 功 ————— 164

書評:【日本美術101 鑑賞ガイドブック】

●上野 行一 ————— 165

私のすすめる一冊:【中原中也詩集「汚れつちまつた悲しみに…」】

●保木井 啓史 ————— 166

私のすすめる一冊:【生活を芸術として】

●長谷川 美和 ————— 167

事務局だより ————— 168

お知らせ ————— 169

学会会則、学会誌編集規程等、投稿用紙 ————— 170